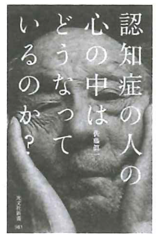
高齢者住宅新聞 2019年11月13日

介護・医療 書籍紹介

「子育てとばして介護かよ」島影真奈美著、KADOKAWA、1100円（税別）

育児未経験者がいきなり介護をする日々を

「認知症の人の心の中はどうなっているのか？」佐藤眞一著、光文社、840円（税別）



認知症の人の心の内を知り、その世界を尊重するにはどうすればよいか。本書では、認知症の人への理解につながる具体的な行動指針を記載。会話を増やすためのツール「CANDy」や最新の研究成果に基づく情報、また、本人の孤独、プライド、苦しみについて、丁寧に読み解いていく。

けビジネス開発に携わる著者が、高齢社会の諸問題にビジネスとして取り組むユニークな先行事例を取材。デイサービスで活躍する「コミュニケーション・ロボット」やQRコードで通知する「徘徊発見システム」など、その事業のどこが新しく、なぜうまくいっているのか、他の業界・職種に応用するヒントなども分析して紹介する。11月15日発売。

「看護・介護現場のための高齢者の飲んでいる薬がわかる本」秋下雅弘他、医学書院、2200円（税別）

のスペシャリストが「ケア時のアクシデントが、実は薬が原因であった」などの事例、また薬剤適正使用のためのヒントや考え方を各テーマごとにまとめた。

「老父よ、帰れ」久坂部羊著、朝日新聞出版、1600円（税別）

45歳の主人公は有料老人ホームから認知症の父を自宅マンションに引き取ることに。その際、勤めるコンサルタント会社には介護休

る薬の正しい飲み方・使い方がよくわかる本」宮城敦子著、現代書林、1300円（税別）

薬に関する素朴な疑問から、正しい飲み方、薬に対する不安や副作用まで、Q&Aの形で紹介する。いずれも著者が日々、現場で患者からよく聞かれる質問が集約されている。沖縄生まれの沖縄育ち、那覇市を中心に3店舗の調剤薬局を経営している著者が、これまでの活動や経験を通じて、できるだけ専門用語を使わずわかりやすいように平易な言葉で解説する。基本的な薬の知識を押さえられる一書。

さいごまで自宅で診てくれるいいお医者さん（週刊朝日MOOK）2020年版

朝日新聞出版
1,000円（税込）

在宅医療が浸透しつつある。だが、住民は「うちの近くに在宅医はいるのか」「訪問診療の活動実績

取り数が多いことが「いいお医者さん」につながる。

もちろん「いいお医者

取り数を網羅

データを集めた。

3冊目の本書では、17年7月から翌年6月までの実数を収録。前回までと違うのは、2416の診療所に加えて在宅療養支援病院にまで手を広げたこと。その結果、病院の看取り件数が意外に少ないことが判明した。全269病院のうち年間100件を超えたのはわずか3病院に過ぎない。

前回と同様に、在宅医療を始める前の基礎知識

入居検討、半数は軽度者

75歳以上が86%

介護施設検索サイト大手のLIFULL senior（東京都千代田区）は、運営サイトの問い合わせデータを基にした施設利用検討者の実態調査を行った。

入居検討者半数 認知症症状あり

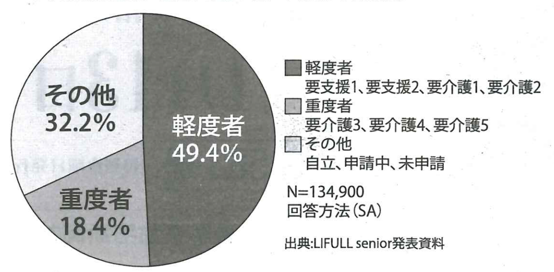
それによると、入居対象者は年齢別に85～90歳が27・7%と最も多く、次いで80～85歳が27%。75歳以上で全体の86・2%となった。

また、入居対象者の要介護度は、要支援1～要介護2までの軽度者が全体のおよそ半数を占めた。その中で、要介護1～2（n＝4万717）の半数近くは認知症症状があるということがわかった。

今後の介護保険制度改正で軽度者が介護給付から外されることになれば、こうした施設入居ニーズを持った軽度者層の金銭的負担増加が危惧される。

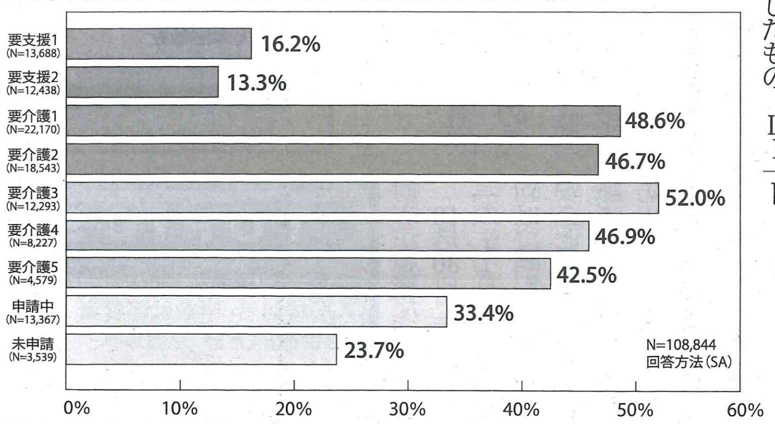
この調査結果は、同社の検索サイト「LIFULL介護」で2018年10月～19年9月までの問い合わせデータベースより該当項目を抽出したもの。LIFULL介護は国内有数の規模の介護施設・老人ホーム検索サイト。

■介護施設入居対象者の要介護度



出典:LIFULL senior発表資料

■介護施設入居対象者の要介護度別 認知症症状あり



来年度 新卒100名採用へ

アズパートナーズ 創業15周年

介護付有料老人ホーム「アズハイム」を1都3県で展開するアズパートナーズ（東京都千代田区）は、今月2日に創業15周年を迎えた。事業拡大に合わせ、年明けには本社事務所を移転。また今年度中に2棟の介護付きホームを開設、総運営棟数は20棟となる。

アズパートナーズ
植村健志社長

今年度中に埼玉県川越市と横浜市戸塚区にそれぞれ介護付きホームを開設する。1月に開設予定の「アズハイム上福岡」は、東武東上線上福岡駅から徒歩11分。鉄骨造2階建ての全60室。3月に開設するのは「アズハイム横浜戸塚」。JR横須賀駅からバスで8分の鉄骨造2階建て、全78室。

これにより同社の運営棟数は合計20棟、総居室数で1248となる。在宅サービスとしては、デイサービスを16拠点、ショートステイを4拠点運営している。スタッフ数は約1300名、来年度の新卒入社は100名を予定しているという。

▲アズハイム上福岡のイメージパース

スタッフ増員や業務拡大に合わせ、来年1月に本社を区内の御茶ノ水近くに移転。教育・研修スペースもより広く取り、デザイン性の高い内装とする計画。ユニフォームも一新した。

15周年を迎え植村健志社長は「全スタッフで考え、動き、成長していける集団でありたい」とコメント。また、記念イベントとして、全スタッフとその家族・友人を東京ディズニーリゾートへ招待し、式典を開催する予定だという。

◀15周年を記念してユニフォームも一新

認知症予防 地域に啓発

チャーム主催で

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター
村田裕之特任教授

チャーム・ケア・コーポレーション（大阪市）は12月7日、第3回「チャーム・カレッジ」を開催する。

同社では、これまでにも認知症の予防・改善をテーマとし、地域に開かれたイベントを開催してきた。今回は、「認知症改善プロジェクト」を監修する東北大学スマート・エイジング学際重点研究センターの村田裕之特任教授を招き、「元気でいきいきと過ごすための秘訣」をテーマに講義を行う。

会場は同社の運営する住宅型有料老人ホーム、チャームプレミアム田園調布。時間は14時～15時、定員30名。

患者様・ご利用者の満足と職員の皆さんの笑顔のために

医療・介護業界は"超"労働集約型産業であり、労働がそのまま、「報酬」につながります。
したがって、ITを利用した業務効率改善がそのまま収益向上につながるという図式が成り立つ業界でもあり、
今後さまざまなシーンでITを取り入れる価値は大いにあると言えます。

よりよい環境で、サービスを受けていただき、患者様・ご利用者の安心感・満足度の向上のために必要なソリューションです。

ITで職員を支援し職場環境の満足度を向上させる場面はたくさんあります。職員のモチベーション向上につながるソリューションをご提案します。
患者様・ご利用者×IT
職員×IT
ご利用者満足の向上
介護予防
安心安全な施設内環境
感染対策
意欲向上 協力的姿勢
AED
緊急事態への備え
感染対策
感染対策
AERO SHIELD.
研修・教育
研修環境整備
キャリア形成
介護支援ロボット
重労働による身体的負荷削減
株式会社 日立システムズ
院内・施設プログラム
介護予防
コミュニケーション
SYNAPSOLOGY
ご利用者見守り
ご利用者見守り
IoTセンサー、ナースコール
メンタルヘルス
ストレスチェック
義務化法令対応
勤次郎
ケア対象者抽出
健康管理システム
人事・勤怠管理システム連携
働きやすい環境づくり
人材育成
モチベーションアップ
定着率向上
予定